

# 第六次総合計画 施策評価シート(令和2年度)

2-③

施策

スポーツ・レクリエーション活動を推進する

担当部局

文化産業局, 保健福祉局

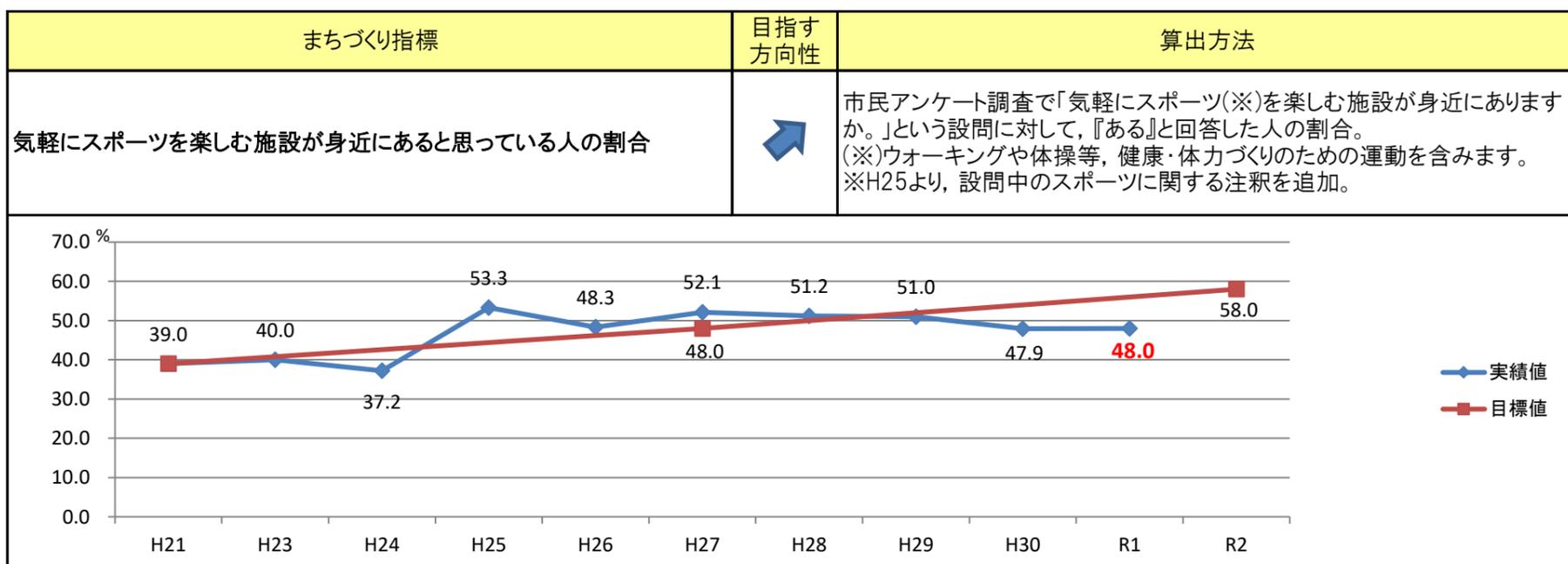
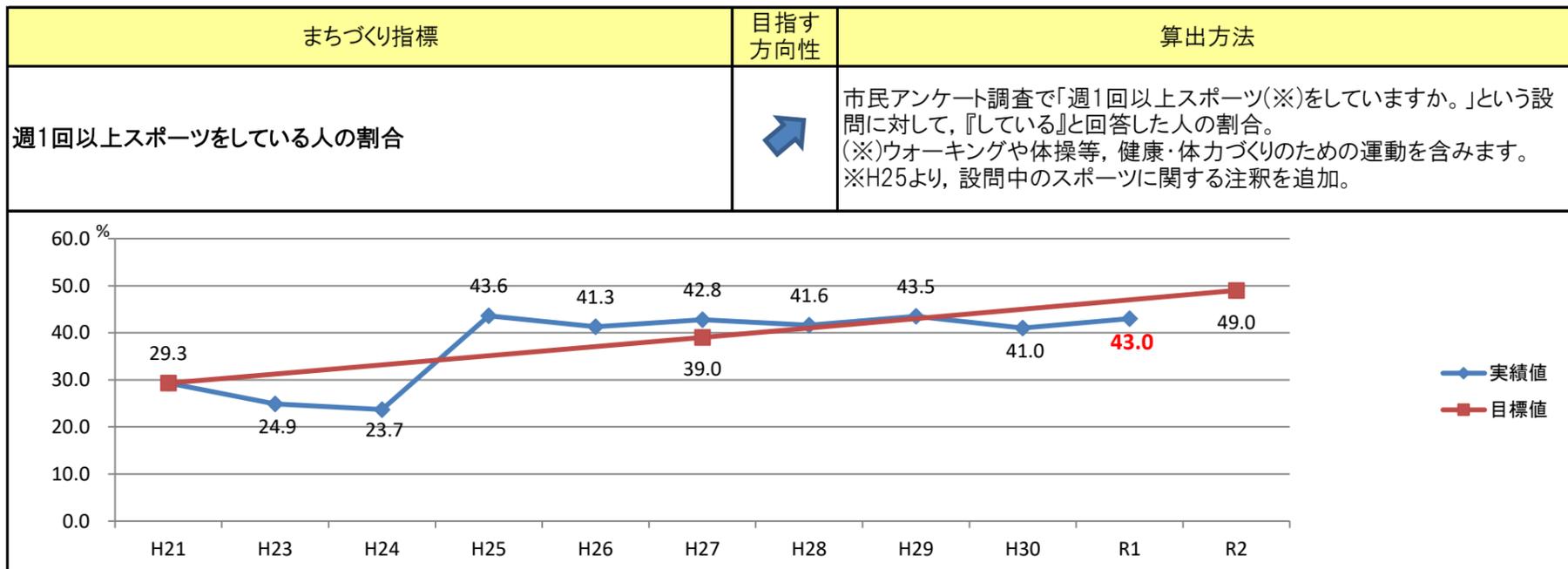


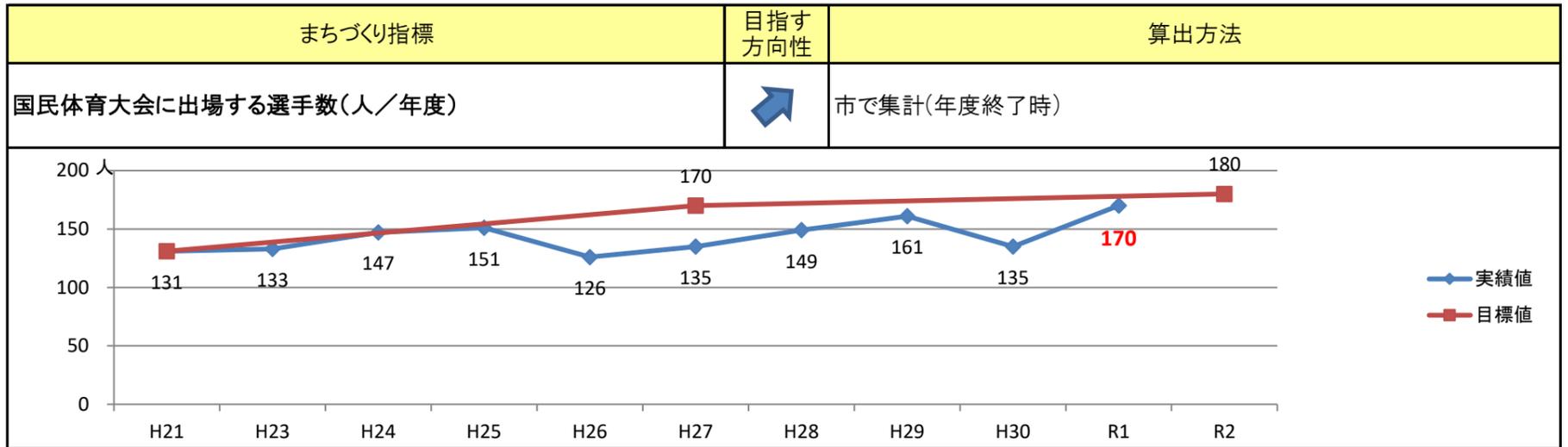
【快 適】 めざまちの姿 だれもがどこに住んでいてもいつでも気軽にスポーツを楽しむことができる

市の基本方針

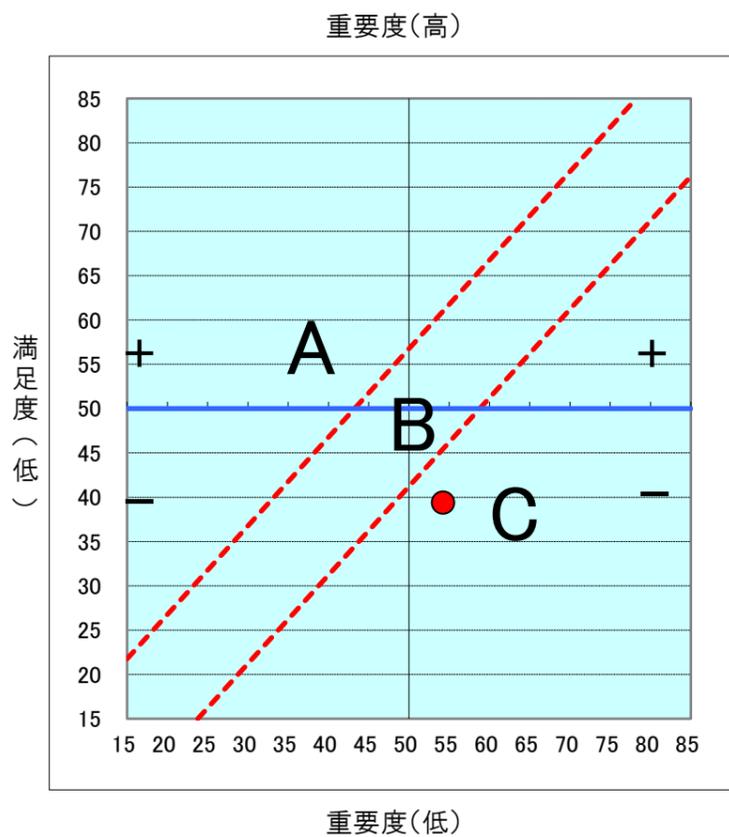
- スポーツを「する」ことだけでなく、「みる」ことや「支える」ことを通して、市民一人一人が、それぞれの目的や年齢、体力、技術の違いにかかわらず、思い思いに気軽に自分にあったスポーツやレクリエーションに主体的に親しむための環境を充実します。
- 老朽化が進んだスポーツ施設については、計画的な修繕、改修に取り組み、施設機能の維持・向上を図り、より安全な施設づくりに努めるとともに、身近なスポーツ施設である学校体育施設の有効活用や多目的運動場、公園、子ども広場など、今ある施設や資源の有効利用を推進します。
- 市民が身近に興味をもち、スポーツに親しむことができるよう、どんな人たちが、どんな情報を求めているのか、本市のスポーツ情報を一元的に集約して整理し、提供するための体制整備など、情報提供サービスの充実を図ります。
- スポーツ医・科学を取り入れたトレーニングなど、選手や指導者を総合的にサポートする体制を充実します。
- 多様化する市民のスポーツニーズにこたえるため、地域における市民の自主的・自発的なスポーツ活動を支援する体制づくりを進め、その支援に取り組みます。

数値目標





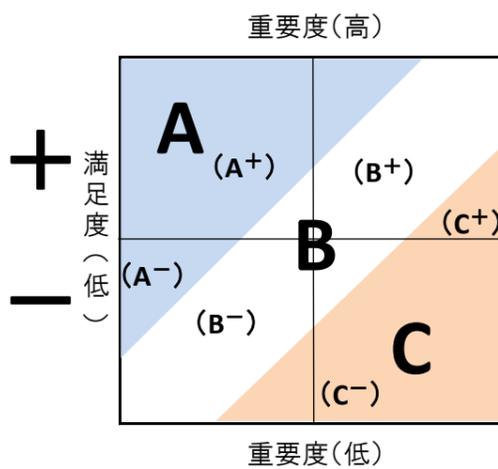
市民の重要度・満足度(R2.5アンケート調査結果)



領域	偏差値	
	重要度	満足度
C <sup>-</sup>	39.37	54.26

●重要度に見合う以上の満足度が得られている(C)  
●重要度が平均値より低い(-)

【グラフの見方】



A: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 B: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 C: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域

※ 以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)  
 +: 重要度が平均値より高い部分  
 -: 重要度が平均値より低い部分  
 A<sup>+</sup>, A<sup>-</sup>, B<sup>+</sup>, B<sup>-</sup>, C<sup>+</sup>, C<sup>-</sup>

A<sup>+</sup>: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価

区分	事業名	目的(I)/令和元年度の主な実績(II)/今後の方向性(III)	R1年度決算額(千円)
	スポーツイベント実施事業	(I) 「市民が主体的にスポーツに親しむための環境づくり」、「競技力強化」、「選手と地域の交流」を目的に実施した。 (II) 第12回倉敷国際少年野球大会(参加者16チーム360人), 第12回全日本ユース(U15)水球競技選手権大会(参加者32チーム515人)を開催した。また, 10月から翌2月にわたって, 「第14回倉敷市民スポーツフェスティバル」を開催し, 市民参加型のイベント「総合型イベント&スポレク倉敷」のほか, 野球教室やサッカー教室, スポーツ振興協会専門部競技会, そしてニュースポーツ交流大会等に, 延べ21,298人が参加した。 (III) 継続して実施する。	18,274
公創	くらしき健康応援事業	(I) 市民の健康意識の向上を目指して, 様々な事業を実施し, 幅広い世代に向け健康行動の実践のきっかけづくりを行うことを目的に実施した。 (II) 健康づくりを広く学べる「くらしき健康応援団講座」(89回, 2,319人), 健康イベントや講座の情報をわかりやすくまとめた「くらしき健康ガイド」の発行(年2回), 骨密度や血流などの測定体験を充実(延19,835人), 健康行動や健(検)診などへの参加によりポイント付与される「くらしき健康ポイント事業」(WEB・アプリ参加者3,506人)の4つの事業を実施した。 (III) 市内企業に従業員の健康づくりを支援する「健康経営」に活用してもらえるよう, 働き盛り世代への働きかけを強化していく。	7,654

区分	事業名	目的(Ⅰ)／令和元年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R1年度 決算額 (千円)
公創	高梁川流域中高年健康スポーツ推進事業	(Ⅰ) 運動を通じた健康づくりを積極的に推進する地域のリーダーを育成し、市民の運動を行うきっかけをつくり、市民が運動や身体について正しい知識や理論を持ちながら日常生活にスポーツを取り入れていくことを目的として実施した。 (Ⅱ) 流域内の大学と連携し、市内3地区で中高年健康・スポーツ教室「出前講座」を開催し、28人(倉敷市27人、浅口市1人)が参加した。また「大学講座」(全8回)を開催し、高梁川流域圏内住民40人(倉敷市38人、浅口市1人、総社市1人)が参加した。また、健康づくりに関心のある流域圏市町の住民を対象に、笠岡市、高梁市で「講演会」を開催し、笠岡市は165人(笠岡市163人、市外2人)、高梁市は87人(倉敷市17人、高梁市65人、総社市4人、笠岡市1人)が参加した。 (Ⅲ) 対象者や教室内容等を見直しつつ、継続して実施する。	1,916
	プロ野球誘致・支援事業	(Ⅰ) 倉敷マスカットスタジアムで開催されるプロ野球公式戦及びキャンプ等を支援することで、継続的な開催を推進し、市民に元気や希望を届けるとともに、本市のスポーツ振興及び情報発信を図る。 (Ⅱ) 10月30日から11月14日まで楽天秋季キャンプが開催された。 (Ⅲ) 本市において楽天秋季キャンプが継続実施されることを目指し、引き続き誘致活動を行う。	1,122
創	倉敷国際トライアスロン大会実施事業	(Ⅰ) 日本初の国立公園に指定された瀬戸内海の風光明媚(び)な多島美を背景に、地域の個性と魅力(特性)を生かし、トライアスロンを通して倉敷市を全国に発信するとともに、市民・団体・企業・行政が連携し、一体感を高め、地域の活性化を図るために実施した。 (Ⅱ) 9月8日(日)に第9回大会を実施。個人の部に525人、リレーの部に42組の申込みがあり、それぞれ466人、41組が出場した。ボランティアとしては約3,200人が参加し、観客が約16,000人であった。 (Ⅲ) 「する」「みる」「支える」を一体化し、地域に密着したスポーツ施策の推進を図るため継続して実施する。	19,166
創	瀬戸内倉敷ツーデーマーチ実施事業	(Ⅰ) 自然に親しみながら、体力づくり、健康づくり、心と心のふれあいを図ることを目的にウォーキングイベントを実施した。 (Ⅱ) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とした。 (Ⅲ) 歴史が長く、全国でも有数規模の大会としての知名度を活かしながら、新たな魅力を創出し、参加者の増加を目指す。	7,434
公都	運動公園再生整備推進事業	(Ⅰ) 平成26年度に策定した「倉敷市運動公園利活用基本構想」に基づく、運動公園のリニューアルを行う。 (Ⅱ) 令和元年度は、テニスコート拡張工事及び東側駐車場整備工事を実施した。 (Ⅲ) 令和2年度は、人工芝グラウンドの防球ネット及び本部棟の新設を実施する。	1,082,492
	スポーツ情報発信事業	(Ⅰ) 市民がスポーツをより身近に感じ、興味を持ち親しみやすい環境を提供するため、スポーツ情報の一元化を図る。 (Ⅱ) 平成25年10月1日より、「倉敷市スポーツ情報サイト“Kurashiki Sports Navi”」を開設し、運用を行っている。平成30年度より、レイアウトを変更するなどサイトのリニューアルを実施し、より多くの人に利用してもらえるように改善した。令和元年度は、スポーツ振興基金に関する情報を掲載するなど、スポーツ情報の集約と整理に努めた。 (Ⅲ) 本市のスポーツ情報によりアクセスしやすいサイトにするため、令和3年度運用開始を目指し、大幅なリニューアルを検討している。	374
	スポーツ選手強化事業	(Ⅰ) 将来の国民体育大会等出場を目指す小学生から高校生までのジュニア選手の資質・能力を最大限に引き出し、育成することを目的に実施した。 (Ⅱ) 倉敷市スポーツ振興協会専門部が行う、有望なジュニア選手を集めた強化練習や大会開催等、更なる競技力向上を図る「ジュニアスポーツ強化事業」に補助金を交付した。またスポーツ医・科学の見地からジュニア強化選手の支援を行う「スポーツ医・科学支援事業」を実施し、スポーツを愛好する一般市民をスポーツ医・科学的側面から支援する「スポーツ相談室」を開催した。 (Ⅲ) 支援内容等の見直しをしながら、継続して実施する。	7,840
公創	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 ニュージーランド ホストタウン事業・事前キャンプ実施事業	(Ⅰ) 東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に、更なるスポーツ振興・国際理解を図るため、ホストタウン登録をしているニュージーランドや、普及・推進に取り組んでいる水球競技を中心に、代表チームの事前キャンプを誘致し、市民との交流の促進を図る。 (Ⅱ) ニュージーランドウエイトリフティング代表チーム及び水球女子日本代表の事前キャンプを受け入れた。事前キャンプ期間中には、市内小学校や高校での交流事業を行うとともに、練習の一般公開や水球女子ナショナルチーム4カ国のエキシビジョンマッチを開催した。またホストタウンフェスティバルを開催するなど市民のオリンピック機運醸成に努めた。 (Ⅲ) 令和3年に延期となった東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、事前キャンプの誘致を目指すとともに、NZ大使館、NZホストタウンズ等関係機関と連携して更なる機運醸成に努める。	21,203
公創	国際おもてなし講座実施事業	(Ⅰ) 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたおもてなし英語力の向上のため、市内で、英語講座を実施した。 (Ⅱ) 市民向け講座を38回開催した。(参加者のべ600人) 美観地区など現地へも出向き、より実践的な英語講座を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	547